

令和5年度 第3回「SAGA コラボレーション・スクール」  
学校運営協議会（学校魅力強化委員会） 議事録

1 日 時 令和5年11月10日（金）15:00～16:30

2 場 所 本校 進路教室

3 出席者 <学校運営協議会（学校魅力強化委員会）・企画運営部会>  
川崎委員、早川 加恵委員

<校内委員>

岡本校長、池田、松尾、山口

4 会順

(1) 校長挨拶

(2) 令和5年度学校評価 中間評価について（報告）

(3) 今年度のSCS 取組状況について

(4) 「唯一無二の誇り高き学校づくり」の実現に向けた「目指す学校像」及び「3つの方針」  
の策定について

(5) その他 今後の予定

◇第4回 令和6年2月14日（水）15:00～16:30 学校評価最終報告

## 議事録

### (1) 校長挨拶

感染症については学校では感染拡大していないが、予断を許さない状況は続いている。引き続き、安全・衛生上の管理に努めていきたい。部活動やボランティア活動に関しては、これまで同様頑張っている。スポ GOMI の全国大会にも参加する予定。また、3年生の進路実績に関しても少しずつ結果が出てきている。これから入試本番を迎えるので、生徒・職員が一つになって取り組んでいきたい。今日は、どうぞよろしく願いいたします。

### (2) 令和5年度学校評価 中間評価について（報告） 【校長より説明】

主に共通評価項目と独自評価項目のすべての評価項目に関して説明。その中で、それぞれの評価に至った経緯や具体的な取り組み事例について説明を加える。

<質疑・応答>

【A 委員】 学校説明会をされる中で、普通科改革で変わることに対する中学生や中学校の反応はどうですか？

【校長】 2つのコースができるということで、「どちらのコースがいい成績なのか」といった質問をされることがあり、そういう成績によるコース分けというイメージがないわけではない。しかし、学びを与えられるだけでなく、自分たちで道をつくっていくことができるということを伝えたい。

【A 委員】 新しく変わるということに関して、在校生はどう捉えていますか。

【校長】 新しく変わるが、総探を中核に据えた教育活動を行っていくという意味では継続している。来年度を見据えて実験的にやらざるを得ないところはあるが、これまでやってきたことが大きく変わるわけではない。

【B 委員】 中間評価の中にボランティアに関する記述がないのは？

【校長】 ボランティアに関しては、部活動だけではなく全体で行っているところもある。部活動だけで行うには負担が大きく、いろいろと見直していかないといけないと感じている。ボランティアは、労働力ではなく、「こういうことがしたい」という目的や意識が先に来て行っていくのが、本来の活動だと考えている。

【A 委員】 今の大学生を見ても、与えられたことはやることができるが、自分からというのは難しさを感じる。そういう意味では、とても必要なこと。実際にボランティア活動をされていて、自分たちから企画するようなことはありますか？

【山口】 先日、唐津くんちの後の街中を清掃ボランティアするという提案が、生徒会から出て、個人や部活動単位で参加するという企画があった。

【校長】 これからの時代は企画力が求められている。そういう力の育成にもつながっていけば。

【A 委員】 それと、先生方の働き方が変わってきているのかが気になっている。取組に書いてある「セルフケア・ラインケア」とは何ですか？

【校長】 これは、県の方から毎月発行されるもの。働き方改革が難しいが、部活動の土日のどちらかを休みにするというのは定着されてきた気がする。

(3) 今年度の SCS 取組状況について 【山口より説明】

今年度は、すでに裏面まで印刷しないといけないくらい、多くの活動を行っている。ボランティア部の活動が目立つが、多くの文化部や運動部、また希望者による参加もあり、活動内容も多角化している。また、今年度は総合的な探究の時間で、学校運営協議会・地域協働部会の委員さんによる授業への参加や、外部とのつながりも増えてきた。

(4) 「唯一無二の誇り高き学校づくり」の実現に向けた「目指す学校像」及び「3つの方針」の策定について 【校長より説明】

本校では令和2年度からスクール・ポリシーを掲げている。今日は、スクール・ミッションの案に関して、ご意見をお聞かせください。

【A 委員】 「自ら立てた課題の解決」というのはとても大事だと思うので、とてもいいと思う。また、「多様な進路の実現を図る」というのは西高らしい印象。

(5) その他 今後の予定

◇第4回 令和6年2月14日(水)15:00~16:30 学校評価最終報告

【校長】 今年度は、部会を二つに分けて行ってきたが、それぞれ何を行っているのか知りたい、こっこの部会で行って見たかったなど、いかがでしょうか。どういう形で行った方がいいのか、来年度も見据えて模索している。

【山口】 昨年度、他校で部会を分けて取り組んでいる学校があり、それを参考に分けた経緯がある。確かに、一方の部会が何を行っているのかわからない側面は課題である。

【A 委員】 昨年度まで、生徒さんと直接かかわることが多かったので、評価の部分もリアリティを感じることもできた。今年度は、HPなどでアウトプットされたものでしか分からないため、想像しながら評価を見ることしかできない。そういう意味では、地域協働部会の方が評価をされた方がいいのかもしれない。

【B 委員】 確かに、取組事例などを見ていると、1年生の総合的な探究の時間での発表会は、私たちも見なかった。